

11 胃に穿破した仮性膵嚢胞の2例

夏井 正明・姉崎 一弥
堀 聡彦・原 秀範 (県立新発田病院)
塚田 芳久 (内科)

〔症例1〕48歳, 男性, アルコール性膵炎にて入院歴あり 平成12年3月より上腹部痛, 4月より腹部腫瘍を自覚し, 5月1日当科入院 入院時CTで膵尾部に巨大嚢胞, 12日の内視鏡で胃体上部大わんに胆汁の流出を伴う壁外性圧排を認めた 15日のCTでは嚢胞はほぼ消失し, 27日の内視鏡では壁外性圧排も軽減した

〔症例2〕33歳, 男性, アルコール性膵炎に伴う腹腔内血腫にて手術歴あり 平成11年10月20日, 腹痛のため入院 入院時CTで膵尾部に手拳大の嚢胞を認めた 11月23日のCTで嚢胞内出血, 30日のCTで鏡面像を伴う嚢胞の縮小化, 12月10日の内視鏡で胃体上部大わんに強度のひだ集中を認めた 両症例とも仮性膵嚢胞の胃への穿破例と考えられた

12 Angiotensin-II (AT-II) 併用昇圧動注化学療法が奏効している進行膵癌の1例

石川 達・佐藤 貞之
松澤 純・見田 有作
松井 茂・田代 和徳 (田代消化器科病院)
田代 成元 (内科)
石川 達・佐藤 貞之
松澤 純・見田 有作 (新潟大学)
松井 茂 (第三内科)
松木 久 (田代消化器科病院)
(外科)

症例は62歳, 男性 皮膚黄染, 食欲不振にて入院 肝内胆管拡張, 主膵管拡張と膵頭部に腫瘍を認めた PTCド細胞診にて Class V, MRIにて肝転移を認め, 腹部血管造影にて門脈本幹, 脾静脈への浸潤を認め, 切除不能膵癌肝転移と診断した 全身化学療法として UFT-E 投与, さらに総肝動脈にリザーバー留置後, Angiotensin-II (AT-II) 併用 methotrexate (MTX)/5-FU 動注, leukovorin (LV) 化学療法を継続した 原発巣はPRで, 肝転移の進行は認められず, 腫瘍マーカーの低下と Performance Status の改善が認められた 現在も治療継続中で, QOLは保たれており, 今後の進

行膵癌に対しての効果的治療になりうると考えられ, 報告する

13 急性膵炎様症状で発症し高アミラーゼ血症を反復した膵管内乳頭腺癌の一例

佐藤 明人・関 慶一
三浦 努・五十川 修 (長岡赤十字病院)
小池 雅彦・広瀬 慎一 (内科)

症例は76歳男性 慢性膵炎の既往および大量飲酒歴なし 突然の心窩部痛を主訴に来院した アミラーゼ 806mg/dl と上昇しており, 腹部CT所見より慢性膵炎の急性増悪が疑われた 絶食, 蛋白分解酵素阻害薬を開始し, 治療の反応は良好であったが, 休止とともに増悪し, 再治療を要した ERPでは主膵管内に類円形透過像を認め, 擦過細胞診でクラスVであり, 膵管内乳頭腫瘍と診断した その後, 当院外科にて幽門輪温存膵頭十二指腸切除術を施行し, 病理組織像は, 膵管内腔へ有茎性に発育した乳頭腺癌であった 膵炎増悪を契機に発見される膵管内腫瘍は低頻度であるとされているが, 膵炎の原因のひとつとして, 腫瘍性病変を念頭に置く必要があると考えられる一例であった

14 内視鏡的胃瘻造設術の合併症および合併症の予防処置に関する検討

中澤 俊郎・武井 伸一 (刈羽郡総合病院)
(内科)

Push法により経皮内視鏡的胃瘻造設術を施行した80例において, 一部の重篤化しうる合併症の予防処置を追加し, その有用性に関して検討を加えた 追加した処置は, 急性期の胃瘻チューブの自己抜去による腹膜炎予防のために胃壁固定術の併用, 腸管誤穿刺の予防にX線透視の使用, 慢性期の瘻孔損傷時のチューブ誤挿入を避けるためにポリ塩化ビニール性細径チューブやガイドワイヤーによる瘻孔突破などであり, さらに身体的負担軽減のために, バンパーの位置確認のために必要とされる内視鏡の再挿入を省略した 胃壁固定術は,